

桜井市万葉歌碑魅力発信事業について



桜井市の万葉歌碑

「山の辺の道」をはじめ桜井市の古道には柿本人麻呂、額田王など「万葉集」にその名を残す名歌人たちの歌碑が六十数基、残されています。

これらの歌碑は昭和46年当時の桜井市長と桜井市出身の文芸評論家、保田與重郎氏を中心に「心ある人々に記紀万葉のふるさとと桜井の歴史を体感し楽しんでいただこう」という思いで呼びかけられ名だたる昭和の文化人に賛同をいただき揮毫されたものです。



桜井市万葉歌碑魅力発信事業

万葉歌碑魅力発信プロジェクト事業は、公益社団法人日本観光振興協会の地域ブランド開発推進事業のモデル事業として、万葉集の魅力を広く海外に発信し、万葉のふるさととしての地域ブランドを高め、万葉集を通じた観光振興と地域活性化を図ることを目的とされたもので、このたび桜井市を選定して頂き、事業実施をさせて頂くことができました。

今回の桜井市でのプロジェクト事業は、桜井市内に多数ある歌碑の中から、奈良盆地の東の山裾を通り、古事記、日本書紀、万葉集にも記載された日本最古の道といわれる山の辺の道周辺に点在する万葉歌碑に刻まれた歌 26首を選定し、選定した万葉歌碑について、翻訳家で作家のピーター・マクミラン様が代表取締役を務める（株）月の舟、奈良県立万葉文化館の皆様のご協力の下、現代語訳、歌の解説、歌の英訳、歌の解説文の英訳等の万葉歌碑の解説・翻訳コンテンツの作成を中心とした事業展開を行いました。

